

# アジア情勢の変化分析

## 勁草塾 寺島氏ら基地減へ持論

齋藤勁元官房副長官が代表理事を務める「勁草塾」の講演会が11日、那覇市久茂地のタイムスホールで開催された。日本総合研究所の寺島実郎会長が「世界の構造変化と日本の2019年」、TBS報道特集の金平茂紀キャスターが「沖縄の民意と向き合ってきて」をテーマに講演。24日開票の県民投票の意義や、新たな東アジア情勢の中で在日米軍基地の再評価といった考え方を提示した。

金平さんは、県民投票の命懸けの思いが世の中を動かした」と主張。多くの会の元山仁士郎代表が全選挙で名護市辺野古の新基地建設反対の民意が示された後の県民投票に「なぞ」と思っていたが、今は違つて、

視界を广角にしてほしい。日米安保の仮想敵国は旧ソ連だった。なぜ北海道に米軍基地はないのか。ソ連進攻のリスクが高かったからだ。旭川の自衛隊が持ちこたえている間に、どう動くかと考える余裕が米軍に必要だった。これで分かるのは米国は自己目的達成のために日米安保を組み立てている。万能の抑止力というのは幻想である。沖縄問題は全体で解決するしかない。冷戦後の1993年にドイツは米軍と向き合い、在独米軍基地の利用目的や正当性を真剣に議論した。日本はアジアの冷戦が終わっていないという認識で議論しなかつた。

## 在日米軍の役割再検討を

寺島実郎氏 日本総合研究所会長

今度こそ新しい東アジア情勢の中で在日米軍基地を再評価することが重要になる。優先すべき基地はどれか。抑止力というならどういふ基地が必要なのか。地位協定を改定し、主権を回復するという問題意識も持たなければならぬ。



講演する寺島実郎氏—那覇市久茂地・タイムスホール

民の声を直接示すことには大きな意味がある」と語つた。寺島さんは「沖縄対日本ではなく、日米両政府が緊張感を持って向き合わないと沖縄問題は解決しない」と主張。米朝、米中の関係を中心とする東アジア情勢の変化に「日本は同盟国として声を上げるチャンス。全ての在日米軍基地をテーブルに載せ、どの

玉城デニ知事、富川盛武、謝花喜一郎の両副知事も参加。玉城知事は「沖縄と世界の関わりで示唆に富む話だった。県政運営に役立てたい」と話した。約230人が参加。インターネットで同時中継され、約400人が視聴した。



講演する金平茂紀氏

## 本土に無意識の沖縄差別

金平茂紀氏 TBS報道特集キャスター

紆余曲折を経ながら、辺野古埋め立ての賛否を問う県民投票の全直実施が決まった。若い力が政治に参加する時、いろんなことを動かすと感じた。行政権力が暴走し、司法が歯止めにならず、国会は儀式化している。その中で直接的な民の声を示す県民投票はとて大きな意味がある。東京にいると感ずる。沖縄問題ではいじめている人といじめられている人の2者だけではなく、それを知らんぷりする人がいる。東京の若い人にインタビューすると「沖縄に基地があるのは当たり前。だって沖縄じゃん。俺たちに関係ない」と悪気もなく言う。無意識の差別がある。確認しておきたい。基地がある故の人権問題が、普天間飛行場返還の原点であることを。どんなに本土が無関心であっても、自分たちの生活、未来に関わることを自分たちで決める「自決権」があることを。